

令和元年度 佐波川河川整備計画アドバイザー会議 議事要旨

日 時：令和2年3月6日～13日

場 所：持ち回り

出席者：赤松 良久	委員	河川工学
朝位 孝二	委員	河川工学
有吉 宏樹	委員	経済
榊原 弘之	委員	防災
関根 雅彦	委員	水質
竹下 直彦	委員	魚類
深田 三夫	委員	水利
森江 堯子	委員	自然環境

委員からの主な意見

委員

- ・ 近年の激甚化する災害を見ていて事業の優先順位が非常に重要であると感じている。
- ・ 佐波川については、優先順位が適切に定められていると思われる。
- ・ 既存ダムの有効活用についても検討を進めていく必要があると感じている。

事務局

- ・ 既存ダムの有効活用については、平成30年12月に示された「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能と情報の充実に向けて」提言を受けて水系内のダムで「利水者との調整等による洪水貯留準備操作（事前放流）の充実」が行えるよう検討を進めている。

委員

- ・ 気候変動を踏まえた治水計画へ転換について、佐波川においては、今後の想定をどの様に考えていくのか。
- ・ 河川環境については水辺の国勢調査のデータも活用して環境の変化について注視していくことも重要である。
- ・ ホタルの放流についても餌となるカワニナを何処で採取しているのか等も在来種の保護の観点では重要となる。

事務局

- ・ 気候変動を踏まえた治水計画へ転換については、佐波川でも今後検討を行う予定である。

委員

- ・ 平成30年7月豪雨において局所的な洗掘や堆積が発生しているようなので今後もモニタリングを密に行い河道の変化について注視していくことが重要である。

委員

- ・ 島地川ダムの重金属対策については他のダムの模範的な成功例として非常に重要であるため、今後もしっかりとした対策を行って貰いたい。
- ・ 気候変動を踏まえた治水計画へ転換について新聞等の記事で見かけたが、佐波川においては、どの様に考えているのか。

事務局

- ・ 気候変動を踏まえた治水計画へ転換については、佐波川でも今後検討を行う予定である。

委員

- ・ 流域のハザードマップをみると、人口密集地のほとんどが浸水想定区域に該当しており、避難所は学校や地区の公民館などが指定されていると思うが、その多くは浸水域に位置している。想定外の洪水は必ず発生すると考えるのが自然であり、それぞれの地区において多機関と連携したタイムラインの策定は非常に重要である。

事務局

- ・ 防災に関する様々なご意見については、今後もハード・ソフト一体となった整備を進めるよう関係機関と協力して取り組みを強化して行きたいと考えている。

委員

- ・ 社会的情勢の変化については大きく変動していないことが確認できる。
- ・ 河川の整備について近年激甚化する災害に備え整備を加速させることが望まれる。

委員

- ・ 防災教育については、環境面も鑑み地域、自治体、子供等が一体となって川に親しみ安全性や水のきれいさも含め総合的に取り組むことが重要である。
- ・ 河川の整備については、各地で甚大な被害が出ていることも鑑み予算を確保いただき早期整備が望まれる。

事務局

- ・ 防災に関する様々なご意見については、今後もハード・ソフト一体となった整備を進めるよう関係機関と協力して取り組みを強化して行きたいと考えている。

委員

- ・ 防災の観点で、様々な情報の発信を行っているが、情報の読み方を的確に伝えることが重要となる。
- ・ 一般市民向けと要配慮者では情報の意味合いも違うため、どの様に伝えるか関係機関が連携して解説のようなことが出来るのが望ましい。

事務局

- ・ 防災に関する様々なご意見については、今後もハード・ソフト一体となった整備を進めるよう関係機関と協力して取り組みを強化して行きたいと考えている。